



NPO법인
삼천리철도

NEWS LETTER

三千里

Vol. 26

2018年5月号

発行
NPO法人 三千里鐵道
〒441-0109
愛知県豊橋市下五井町青木31
TEL.0532-53-6999
FAX.0532-54-4931

1980年5月 光州から始まった

代表 都相太

私の所蔵する大切なものの一つに故金大中大統領の書がある。その書には”行動する良心で 祖国統一、民主回復”と書かれている。

激動する渦中にある朝鮮半島の現在、この端緒はどこにあるのかという疑問がわく。80年近い自らの小さな経験から振り返らなければ、この激流を理解できない。後世、歴史家は長いスパンで分析をするであろうが、現実には生きていた者にとっては、その人生の中で振り返り、自らの人生を点検する必要がある。

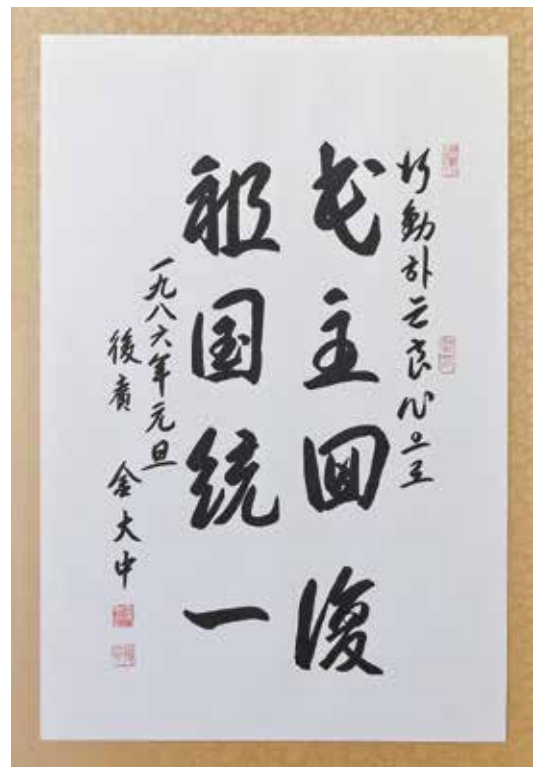
NPO三千里鐵道が結成されるきっかけになった金大中大統領と金正日国防委員長による2000年6.15南北共同宣言、2007年の10.4南北首脳宣言は盧武鉉大統領と金正日国防委員長であり、今回の4.27板門店共同宣言は文在寅大統領と金正恩委員長の署名によるものである。

今回の板門店宣言の最も重要なものは「朝鮮半島の非核化」が盛り込まれたことである。昨年未までは北側（朝鮮民主主義人民共和国）の核開発とミサイル問題でアメリカによる戦端が開かれる雰囲気が充満していた。それと、日本の政治もマスコミも、それを期待していたのではないと思われる論調であった。

北側の核問題については、アメリカをふくめ五大国の核保有はよくて他の国は保有してはならないという身勝手なもので、この論理はインド、パキスタンの核保有で破綻し、中東のイスラエルの核保有も疑われている。しかしながら、朝鮮半島の平和と統一のためには核はまったく不必要なことは論をまたないであろう。

NPO三千里鐵道は、結成原点は非武装地帯から南北等距離に見よう、祖国に具体的に貢献をしようとしたもので、結成から18年の時が経過した。

1973年の金大中氏拉致事件から日本においても顕在化した民主化支援闘争は、1980年の凄惨な「光州事件」の発生とともに規模も質も大きく変貌する。



未だに真相究明が明確になっていないが、数多くの若者の命をもって記憶され続けられている光州事件こそが、金大中、盧武鉉政権が大きな礎を築き、朝鮮半島の平和と統一へ向けより具体的な成果を生むべき命題を背負った現在の政権ではないかと考えている。

この文在寅政権も、若者と平凡な市民たちが誕生させたものである。

6月に予定されていた朝米会談がいったん中止となりましたが、どのような紆余曲折があろうと、朝鮮半島の平和と統一に向けてのエネルギーは、確固たる確信をもって前進する。

今朝の韓国のニュースは、5.18「光州事件」38年で、密葬されたという若者の行方を捜していた。

まっすぐな怒りが、まっすぐな政権を誕生させる。

2018年5月25日

朝鮮半島の平和と繁栄、 そして統一の時代に向けて

康宗憲

4月27日、板門店で南北首脳会談が開かれ、3条13項目からなる『4.27板門店宣言』が発表された。2000年6月、2007年10月に続く第3回目の開催だ。その際にも『6.15共同宣言』と『10.4首脳宣言』が採択されたが、いずれも履行段階で挫折している。要因として、敵対的な米朝関係のもとで南北合意の履行は困難であり、南の保守政権登場で宣言が反故にされた、といった点が挙げられる。これに反して今回の首脳会談は、米朝関係改善が予測されるなか、熱い支持を得た民主政権の就任初期に開催された。

＊『4.27板門店宣言』の意義

『4.27板門店宣言(以下、宣言)』はその前文で「平和と繁栄、統一を念願する全同胞のひたむきな思いを込めて、…両首脳は朝鮮半島にこれ以上戦争は起こらないし、新たな平和の時代が開かれた」と謳っている。70年を超える分断の苦難に堪えてきた朝鮮民族が、南北両首脳の名で「戦争の終焉と平和の幕開け」を宣言したのだ。今回の首脳会談に向けた南のスローガンは「平和、新たな開始」であり、北は「平和の時代、歴史の出発点にて」だった。共有されたキーワードは「平和」と「新たな出発」である。

宣言はその第1条で南北関係の全面的で画期的な改善を掲げ、既存の南北諸合意を徹底履行、多方面の民間交流と協力事業の活性化、双方の当局者が常駐する南北共同連絡事務所の設置、離散家族の再会実現などを表明した。連絡事務所をソウルとピョンヤンに別途設置するのではなく、共同事務所として開城地域に設置することに注目したい。東西の鉄道・道路を連結し近代化する事業も再開されるだろう。

第2条は軍事緊張の緩和と戦争危機の解消に関するもので、相手に対する一切の敵対行為を全面中止、非武装地帯の実質的な平和地帯化、5月中の将官級会談開催などが合意された。実際に5月1日をもって、軍事境界線一帯での拡声器放送は中止されている。

第3条では、朝鮮半島の恒久的な平和体制構築に向

けた共同努力が強調されている。南北は相互不可侵の厳格な遵守と段階的な軍縮に合意した。また、休戦協定65周年の今年中に朝鮮戦争の終戦を宣言し、平和協定への転換を目指す南北と米国、あるいは南北米中の四者会談開催を推進すると表明した。そして、「完全な非核化による核なき朝鮮半島の実現」が、南北共同の目標であると確認している。

12時間にわたる南北首脳会談と各種セレモニー。とりわけ、両首脳が出会う最初の場面は衝撃的だった。軍事境界線を挟んで固く握手した両首脳…。金正恩委員長は一人で越南したがその直後、文在寅大統領と手を取り合い満面の微笑みで二人は越北し、そして一緒に越南した。5cmの高さしかないが、圧倒的な規制力で朝鮮民族を分断してきた軍事境界線のコンクリートが、南北共同の意志で無力化される瞬間だった。『4.27板門店宣言』は朝鮮戦争の終戦と、新たな平和時代の到来を予告した歴史的な文書として記憶されるだろう。

＊米朝首脳会談の展望

5月24日、トランプ大統領は金正恩委員長宛に書簡を送り、6月12日開催予定だった米朝首脳会談の中止を通告した。「最近の朝鮮側が示した怒りとあからさまな敵意により、この時期の開催は不適切」という内容だ。一方、朝鮮外務省は金委員長の委任を受け「今回の遺憾な事態は、朝米の敵対関係が極めて深刻であり、関係改善に向けた首脳会談の切実さを明確に示している。…いつ、いかなる形式であれ、米国と対座して問題を解決する用意がある」との談話を発表している。

朝鮮半島が昨年の戦争危機から米朝首脳会談を想定するまでに劇変したのは、朝鮮の一連の政策転換によるものだった。昨年11月29日、大陸間弾道ミサイルの発射実験に成功した朝鮮は、「核武力の完成」を宣言する。元日の新年辞で南北関係の改善を強調した金委員長は、3月5日に文大統領の特使と面談し、

非核化に向けた対米交渉の意志を表明した。「朝鮮に対する軍事的脅威が解消され体制の安全が保障されるなら、核兵器を保有する理由がない」とのメッセージである。3月8日、その特使から直接報告を受けたトランプ大統領は、即座に米朝首脳会談の開催を受け入れた。

そして4月20日、朝鮮労働党中央委員会の全体会議で、これまでの「生存戦略＝経済建設と核兵器開発の並進路線」から、「発展戦略＝経済建設重視路線」への一大転換を決定した。さらに、核実験場の廃棄とミサイル発射実験の保留など、先行措置の実施を表明している（廃棄は5月24日に実行）。電撃的な首脳会談の開催合意は、米朝双方の利害がほぼ一致したからであろう。朝鮮だけではなく、米政府も政策転換を実行している点に留意すべきだ。これまで掲げていた「核・ミサイル放棄の先行」という対話の前提条件を撤回し、「現状凍結」を基準にしている。政策転換は「リビア方式」からの撤退に他ならない。

朝鮮の核・ミサイル開発は米朝敵対関係の産物である。朝鮮は一貫して「米国の敵視政策撤回」を要求してきた。具体的には、朝鮮戦争の終戦と平和協定の締結、米朝の国交樹立である。それが実現すれば、「貧しい核保有国として国際社会から孤立する必要はない」のだ。ビジネスの取引に長けたトランプ大統領が、外交交渉に置いてギブ・アンド・テイクの原則を守るなら、米朝首脳会談は遠からず開催されるだろう。朝鮮に「検証可能かつ不可逆的な完全非核化」を求めるなら、米国も朝鮮に「検証可能かつ不可逆的な体制安全保障」を提供しなければならない。完全非核化の速度は、米朝関係正常化への速度に正比例するからだ。

中止に関する双方の文面を見ると、相手を刺激する表現は見当たらない。米朝首脳会談は完全な決裂ではなく、仕切り直しと見るべきだろう。米国の指摘した「怒りとあからさまな敵意」は、核放棄の先行（リビア方式）を再論し攻勢に転じたトランプ政権が招いた結果だった。敵対関係にある両国間の交渉で、同時行動の原則を逸脱し相手に先行譲歩を強要する米国の政策はすべて失敗している。トランプ政権は自らの対朝鮮政策を冷静に分析し、歴代政権の教訓を生かすべきだろう。

✿ 今後の課題

5月16日、北は当日に予定されていた南北高官会談の延期を表明した。11日から25日の期間で始まった米韓合同演習が原因だった。南は「定例の防御訓練であり速やかな会談開催を促す」と、北に遺憾を表明した。確かに、3月5日に文大統領の特使と面談した金委員長は「例年水準なら米韓演習の実施を理解する」と語っている。

米韓演習が核搭載戦略爆撃機の投入など対北攻撃の側面が露骨になったのは、2013年の朴槿恵政権登場からである。金委員長の「例年水準」という表現は、攻撃的な合同演習は容認できないとの意味であり、彼はこの時も「南北関係が改善されれば、米韓軍事演習の規模や性格も変更される」との期待を表明している。実際に、南北首脳会談直前に始まった4月の米韓軍事演習は期間と規模が縮小され、爆撃機や原子力空母などの戦略兵器は投入されていない。ところが、今回の演習では米軍のF-22ステルス戦闘機やB-52戦略爆撃機など、100機を越える米韓空軍の戦力が投入されるという。「例年水準」を超過した規模と強度であることは言うまでもない。

肝に銘ずべきは『4.27板門店宣言』がその第2条で、「南北は地上と海上、空中をはじめ全空間での、軍事的緊張と衝突の根源となる一切の敵対行為を全面中止する」と闡明していることだ。今は南北双方が、宣言を忠実に履行し信頼構築に努める時期である。冷戦時代の不信と対決意識が南北双方の実務者に、慣性として根強く残存しているのだろう。時代の転換が急速であるほど、分断思考とのギャップは顕著になる。

今回の宣言には、履行を強調する修飾語が目立つ。「徹底して履行し…、積極的に対策を講じ…、速やかに解決し…、厳格に遵守し…」。両首脳の強い意志が反映されているのだろう。板門店で文在寅大統領は、金正恩委員長の和解に向けた先行措置を「勇断」と称え謝意を表明した。金正恩委員長は「二度と後戻りせず、全同胞を失望させない」と履行意志を強調することで呼応した。現況を打開するには両首脳が虚心坦懐に対話することだ。折角の直通電話を、今こそ活用してほしい。

(5月25日、康宗憲)

写真で見る第三次南北首脳会談

2018年4月27日 板門店



韓国大統領府が開設した南北首脳会談ホームページから



文在寅：金委員長は南側に来られたけれど、私はいつ頃越えて行けるだろうか？
金正恩：じゃあ、今、越えて行かれますか？



文(문)の□を青で、金(김)の□を赤で記した訓民正音の前で記念撮影。



南北首脳会談

韓国側 左から、徐薫国家情報院長、文在寅大統領、任鍾哲大統領秘書室長

朝鮮民主主義人民共和国 右から、金与正労働党第1副部長、金正恩国務委員長、金英哲統一戦線部長



南北の未来を二人きりで話した30分間…





“平和と繁栄を植える” 白頭山と漢拏山の土、漢江と大同江の水を使って記念植樹



板門店宣言に署名し発表する南北首脳



晩さん会にて



北側からはマジシャンも来ました。



李雪主女史が金正淑女史と話そうと来た時、文大統領が自分の席を譲った…



歓送公演で手を携えて歌った玄松月(三池淵管弦楽団団長)と趙容弼



4月29日、多くの市民が“軍事境界線”を越えた。(『JSA』などを撮影した南楊州総合撮影所板門店セット場にて)

企みがかえって悪い状況に

磯貝治良

私事ですが、このほど文学とは毛色のちがった著書を初めて出した。日本列島をヒビ割れさせる、不条理な政治や世相を批判し、警鐘を鳴らすつもりで、題して『うらよみ時評 斥候(ものみ)のうた』(一葉社)。

表紙カバーの挿画は16世紀の画家ピーテル・ブリューゲル(父)の「ネーデルラントの諺」です。ネーデルラントは今のオランダでその地方の諷刺あふれる諺を絵画化した作品。日本の諺とは似て非なるところが面白く、いちいち紹介したいけれど、道草を避けて一つだけ。

鉄の帽子と体じゅう武具でよろった男が猫に鈴をつけている「猫に鈴をつける」は、「企みがかえって状況を悪くする」の意。この男は口にまで鉄片をくわえていて「歯まで武装する」。その意は「よけいな重武装」ということ。

いきなり16世紀の遠い国の諺を紹介した理由は、本文から察してもらうとして、このところ東アジアに展開している、あまりにも対照的な明と暗の光景について。

まずは美しい光景。

ピョンチャン冬季五輪で南北の選手が統一旗を掲げて合同入場行進、女子ホッケーでは統一チームを組んだ。後日の世界卓球大会でも団体戦で合同チームを組んだ。「五輪の政治利用」とか「北の思惑にはまる」とか外野席の駄言を尻目にIOC会長が「オリンピックの平和精神にかなう」と明言したのは、見事だった。「スポーツの政治利用」大いに結構。ただでさえ国威高揚と商業主義のシモベに墮している五輪が朝鮮半島の和解、平和構築の一里塚に役立つなら、スポーツは本望だろう。

4・27南北首脳会談が織りなす、さまざまな光景。文在寅大統領と金正恩委員長が手をつないで、親戚の叔父と甥が光の風に吹かれてピクニックさながらに軍事境界線を越える光景は極めつけで、「只今、統一中」をおもわせて、秀逸だった。

朝米会談の日程が(最悪のドタキャンがなければ)6月12日、シンガポールに決まった。トランプよ、美



「見ないぞ、見ないぞ…」
平昌オリンピック開会式。南北統一チーム入場の時の安倍首相

しい光景を消すな!

では、みにくい光景とは何か? ちょっと恥ずかしくて口が凍る。しかし、「口あるものは語らなくてはならない、体あるものは現わさなくてはならない、底のほうから、底のほうから」というのが信条なので、言わざるを得ない。

ピョンチャン五輪から今日に至る2018年の今、列島をおおう暗景が目にも余る。ようやく闇を払って光の緑野にいたる道順が見えはじめているのに、日本じゅうがそれを邪魔しようと躍起になっている。まるで大衆症状を呈している。その症状は言うまでもなく、政治権力が音頭を取って、その意を体して劣化したマスメディアを発生源とする。

朝鮮半島の南北が仲よくすることをやっかみ、一つになることを恐れて、あれこれと水を差す。朝鮮半島の分断をこれ幸いと、大衆の俗情を煽って支配の道具にする。歴史と現実の真実にはひたすら目を閉じ、口をふさいで、不条理な状況を隠蔽し合う。外交の無能を誤魔化してアメリカに隷従しているうちに梯子を下ろされて、気づいたら蚊帳の外に置き去りされて、冷戦の孤島になる——そんな道順が、見えはじめています。企みの底が抜け始めている。

そこで、生粋のナショナリズム嫌いのわたしが、にわか愛国者になる。

この国を救え!

(2018・5・20記)

南北共同繁栄のために、南北と欧州をつなぐユーラシア大陸横断鉄道を実現したい!!

三千里鐵道は、 東海北部線連結事業に参加します!!

…東北アジアからEU、中東への輸送ルートとしては、船便、中国大陸鉄道ルート経由(CLB)、シベリア鉄道(TSR)経由がある。韓国から欧州へは海運で40日、CLB、TSRルートで10日~15日。中国ルートは複数の国にまたがるが、シベリア鉄道はロシア一国の管轄だから優位といえる。近代化と高速化を実現すれば、4日程度に短縮できるとも言われている。東北アジアと欧州を結ぶ物流は画期的に発展するのだ。南北分断下においては、韓国は「島国」も同然だ…



— 東海線をつなげば、大陸に行くことができます —

「平昌高速鐵道が良かったと聞きました」(金正恩國務委員長) 「北と鐵道が連結されれば、南北ともに高速鐵道を利用することができます。」(文在寅大統領) (※4.27首脳会談にて)

板門店宣言では、その1-⑥項に「一次的に東海線および京義線鐵道と道路を接続して近代化し、活用するための実践的な対策を取っていく」と書かれている。南北共同繁栄のために最も重視されたのが鐵道連結とその活用だということである。

実はよく知られていないことであるが、東海北部線は、江陵-束草-猪津間は線路が敷設されていない。が、板門店宣言を受け、南北交流協力事業の一環として連結工事をすることが確定した。

江原道も「陸・海・空の“平和の道”」を重点的に推進するとし、中でも第一に鐵道を挙げている。

今、三千里鐵道と交流関係にある社団法人『希望レール』(李哲理事長・元韓国鐵道公社社長、www.railhope.com)が、市民の力も合わせて行おうと積極的に枕木寄贈運動を始めていて、また広く海外同胞にも呼び掛けている。三千里鐵道はその提案を受け、日本地域においてその運動を展開することとした。

東海北部線連結枕木寄贈運動を日本でも推進します!!

■期間：2018年6月15日~2019年4月27日 ■募金：一口一万円 (枕木1本 10万ウォン)

※枕木寄贈運動に参加を希望される方は、同封の払込取扱票にてご送金ください。

※募金者のお名前が枕木に書かれます!ので、メッセージ欄に希望するお名前をご記入ください。

※複数口をご希望の方は、全員のお名前をお書きください。

6.15共同宣言18周年記念講演集会

4.27第三次首脳会談を歓迎して

平和、新しい始まり



— 平和、新しい始まり —

講演

丁世絃氏

元韓国統一部長官
韓半島平和フォーラム理事長

通訳

康宗憲氏

(韓国問題研究所代表)

2018年4月27日は、生涯忘れられない日になりました。

2000年6月15日の歓喜が蘇り、2007年10月4日、期待に胸膨らませたあの日を思い出した方も多いと思います。李明博、朴槿恵の時代、南北関係はまさに長い冬の時代でしたが、それを打ち破るに余りある劇的な南北首脳の出会いと、平和な未来を余すことなく展望した板門店宣言!!

南北が正面から向き合い、何よりもまず平和!を実現し、対話を重ね、交流を深め、協商し、Win Winの関係を構築し共同繁栄の道を歩む、そのような〈平和、新しい始まり〉の時代を私たちは迎えたのです。

6月12日に予定されていた朝米首脳会談がいったん中止されてしまいましたが、それは朝鮮半島をめぐる情勢の一大転換を図るうえで生じた生みの苦しみと言うべきでしょう。

改めて言うまでもなく、朝鮮半島の非核化を推進する過程で、朝鮮戦争の停戦協定を平和協定に代えて、朝鮮民主主義人民共和国と米国・日本が国交を結ぶことなしに、朝鮮半島ひいては東アジアに平和は訪れません。この大きな歴史の流れを確固としたものにするために、私たちともに歩んでいきたいと思えます。

このような情勢の中、韓国国内はおろか、米国、ドイツなど世界を飛び回っていらっしゃる丁世絃元統一部長官を招請し、存分に語っていただく講演会を企画しました。ぜひご来場ください。

2018年

日時

7月14日 土

午後6:30開演

場所

ウインクあいち 大会議室901

名古屋市中村区名駅4丁目4-38
(名古屋駅より徒歩)

入場料 **800円**(大学生以下無料)

